

重大な事故防止に向けた安全対策 【 14 ソフトボール 】

1 競技特性

ソフトボールは野球型の競技で、投げる、打つ、捕る、走るが基本動作となる。勝敗は野球と同様に2チームが攻撃と守備を交代しながら得点を競う(野球は9回、ソフトボールは7回が規定回数)ものである。球場は野球と同様の形状でホームベースを中心的に1、2、3塁がダイヤモンド型に設置されている。しかし、1塁ベースだけがタブルベースを使用し、打者走者はオレンジ色の外側のベースを駆け抜け、守備者は白い内側のベースを使用する。この事により走者と守備者の接触リスクを避けている。ソフトボールのルールは野球とは様々に違う点があり、球場のサイズもコンパクトになっている。プレイスタイルで大きく違うところは、投手の投球方法がアンダーハンドピッチングとなっている事、盗塁は投球後まで離塁が出来ない事が大きな違いである。用具は野球と同様にバット、グラブ、ボール、ヘルメット、スパイク、帽子を使用する。競技対象者は年齢や性別、体力、体格にあまり影響されることなく大勢の人が競技として楽しむ事が出来る。

起きやすい事故としては、施設用具の不備、プレーヤーの衝突、ボールとの衝突、バットによる殴打、などが挙げられる。また、野外競技のため雷・突風・集注豪雨等の自然災害により起こりうる災害も考えられる。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<グランドの状況>		
・ グランドの整備不良	・ 打撲、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、突き指、捻挫、骨折	・ 活動前にグランドの状態を確認する。 突起物がないか確認する。 グランド整備に必要な用具を整える。 用具の正しい使用方法を身に付ける。
・ 雨天のコンディション	・ 打撲、捻挫、骨折、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう	・ 地面の凸凹や滑りやすい場所、芝生の状態を事前に確認しておき注意する。
・ 突風による障害物飛散	・ 打撲、骨折、眼球損傷、脳しんとう	・ 風により飛散しそうな物の状態をチェックする。 突風等を確認したら一時試合を中断する。
<用具の状況>		
・ バットやヘルメットの傷や損傷	・ 打撲、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう、脳挫傷	・ ヘルメットに破損がないかをチェックしておく。 バットの表面の凸凹や傷、打撃音の異常があるバットは使用しない。 日頃から自分の道具に対して点検する意識を持たせる。
<設備の状況>		
・ 施設や器具に衝突	・ 打撲、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう	・ 使用する設備の不備がないか点検する。 設備品器具類の正しい使用方法を確認する。

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<試合前の練習>		
・ 選手同士の接触	・ 打撲、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、突き指、捻挫、骨折	・ 活動前にグランドの状態を確認する。 選手間の安全な活動距離を確認する。 声を出し危険回避の習慣を身に付ける。
・ キャッチボール方向の交差	・ 打撲、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、突き指、脳しんとう	・ 並列で同一方向へ投球すること。 他のペアと距離が十分であることを確認する。
・ ピッチャーの投球練習の方向の交差	・ 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、脳しんとう	・ 捕手の後方に人がいないことを確認する。
・ 複数のバッティング練習	・ 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、脳しんとう	・ バットスイングする選手の背後に近づかない。 同時に打たない。 トス者とバッターの位置に注意する。
・ ノックの練習	・ 打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、脳しんとう	・ ノッカーのバットスイングに当たらないようにタイミングと距離に注意する。 ノッカーは守備者の捕球から投球を確認してから次のノックをするように注意する。

<試合中>	
・投手の暴投	・打撲、骨折、歯牙破折、眼球損傷、脱臼、口内裂傷、脳しんとう
・打者スイングと捕手の接触	・打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、脳しんとう、脳損傷
・イレギュラーバウンド	・打撲、骨折、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、突き指
・打球・送球の捕球ミス	・打撲、突き指、骨折、眼球損傷、歯牙破折、脱臼、口内裂傷、脳しんとう、脳損傷
・スライディング時	・打撲、突き指、捻挫、骨折、脱臼、脳しんとう
・野手間の衝突	・打撲、骨折、脳しんとう、脳損傷
・野手と走者の衝突	・打撲、骨折、鼻血、脳しんとう、脳損傷
<試合開始・終了>	
・開始・終了の整備（レークの扱いなど）	・腹部打撲、内蔵損傷
	・暴投をよける練習も普段からしておく
	・打者はスイング後にバットを放り投げないようにする。捕手は打者に近付き過ぎないようにする。捕手は防具の点検を普段から心がける。
	・グランドの状態を事前に確認する。普段からボールの捕球技術を養い、イレギュラーな打球にも対応できる技術を身に付ける。顔面に直撃しないような捕球姿勢と反射神経を身に付ける。
	・普段の練習で捕球技術を磨き実践で十分対応できるようにする。ゴロを取るときにグローブを持っていない手を突き出さない指導。
	・普段からスライディング技術の習得練習を行い安全なスライディング技術を身に付ける。
	・野手間の守備範囲や声のかけ方等を日常の練習で確認する。
	・走者については正しい走塁の仕方を指導する。守備者はベースの一角をあけて走塁の支障にならないように指導する。本塁上のプレーについてはルールに添ったタッチプレーの仕方（ブロックで走路をふさがない）を練習で指導する。
	・グランド内に整備を行う上で支障がある突起物等がないかチェックしておく。安全なレークの使い方を指導しておく。特に押すときには腹部に当たないよう指導する。

(3)主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<竜巻・突風>		
・竜巻等の突風により防球ネットが倒れる、また、物が飛ばされる (全会場注意)	・打撲、骨折、脳しんとう、脳損傷	・活動前の気象情報入手・活動中の天候等の変化に注意し対処する。風の向きや強さなどの状況を把握する。ネットの置き方を工夫する。飛ばされて危険な道具や用具は注意して管理する。
・竜巻・突風に巻き込まれる (全会場注意)	・打撲、骨折、脳しんとう、脳損傷、心肺停止	・急激な気象変化（黒雲・冷たい風・雷鳴等）に注意し異変を感じた時には速やかに避難する。
<落雷>		
・落雷 (全会場注意)	・感電、心肺停止、意識不明	・雷の音が聞こえたら直ちに試合を中断する。避難場所・避難経路・避難方法を事前に計画し競技者を含め関係者全員に周知徹底する。
<熱中症>		
・熱中症	・熱痙攣、熱失神、熱疲労、熱射病	・事前に気象情報確認と当日の気温変化に注意する。こまめな水分補給をする。WBGTの温度計を設置し活用する。
<その他>		
・Jアラート発令時の対応		・発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また、情報収集の手段や、関係者および保護者等と連絡方法について準備しておく。